【別紙6-1】

履歴書及び研究業績リスト記入上の注意

履歴書

1. 氏名　フリガナを付すこと
2. 学歴
   (1) 大学卒業(或いはそれに相当のもの)から記入する。
   (2) 博士課程が最終学歴の場合、中途退学、単位修(取)得退学の別を明記する。
   (3) 博士取得および研修員は学歴として扱う。
3. 職歴
   (1) 最後に「現在に至る」と書く。
   (2) 「日本学術振興会特別研究員」は職歴に記入する。
4. 海外出張
   (1) 職歴欄に年次をおって記載する(括弧を付ける)。
   (2) 市立大学在外研究員である場合はそれを明記し、その他の場合は適宜基金等を付記する。
   (3) 出張先は国名のみで可。適宜機関、大学名等を付記する。
   (例)昭和60年4月　大阪市立大学文学部講師
   (昭和61年3月25日～昭和62年3月20日市立大学在外研究員としてイギリスへ出張)
   平成元年4月　大阪市立大学文学部助教授
   (平成3年5月1日～平成4年3月1日中国(北京大学)へ出張(学術振興会国際共同研究))
5. 学歴職歴欄の大学名等で上段と同じものでも「同」とはしない。

研究業績リスト

1. 業績欄の数え方は、著書・訳書は冊、論文は篇、学会発表・その他は件とする。
2. 著書
   (1) 冊子形式のものは著書に数えない。論文欄に入れる。
   (2) 論文集・講座・共同研究等の分担執筆は、共著でなく、論文(又はその他)に入れる。
   (3) 共著とは、表紙・扉・奥付のいずれかに、共著名が明記されているものをいう。
   (4) 共著者計3名までのときは全員の氏名を記入し、計4名以上のときは代表者1名と共著者数を付記する。
   (例) (3名まで) ○○○・◇◇◇・×××と共著
   (4名以上) ○○○ほか○名と共著
   また、当事者の執筆部分も付記する。
   (例) 全8章中第3・4章執筆　○～○頁
3. 訳書
   (1) 訳書名欄に原著者名と訳書名を記入する。
   (2) 共訳については共著に準じる(上記2の(3)(4)参照)。
4. 論文
   (1) 論文題目の末尾に頁数を記す。
   (例) ○○○の一考察　15－45頁
   (2) 連載のものはその1つ1つを1篇とかぞえる。
   (3) 共同執筆については、共著に準じる(上記2の(3)(4)参照)。
   (4) 査読を経た論文については、掲載詩誌名文末に(査読付)を付記すること。
5. 学会発表
   共同発表については、共著に準じ(上記2の(4)参照)、「題目」の後に氏名を記載する。
6. 印刷中のものはすべてその他欄に記載し、「年月」欄に「(○年○月出版予定)」と記入する。
7. 編集等
   編著・編集・監修・企画等は、事例に即して判断する。
8. 科学研究費補助金研究成果報告書
   (1) 論文・その他の区分は各自の判断による。
   (2) 「誌名(巻・号)」欄は、報告書の編者・標題名(ない場合は省略)、研究年度、研究種目を記入する。課題番号は省略。

（例） ○○○編『××××』平成×年度科学研究費補助金
（○○研究×）研究成果報告書

(3) 「発行所その他」欄には、発行所（一般書店等のみ。大学名は含まず）、もしくは研究代表者を記載する（後者の場合括弧で括る）。

（例） （研究代表者：○○○○）

9. 学位規程改正に伴う学位称号の書式変更に留意すること。

10. 業績には、著書・訳書・論文・学会発表・その他の区分ごとに一連番号をつける（人事資料として提出された著書等の各冊篇にこれに対応する番号をつける）。付け方は記載例参照。

11. 主要業績欄には、著書からその他までに記載した業績のうち、執筆者が「主要」と判断するもの3点の区分および番号を記入すること。